Combi

コンビ チャイルドシート

ハピオスファースト2.5

2000／01
UNIVERSAL(汎用型)
-18kg
自
C-1008

品質保証書付

角度チェッカー付

- お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。
- チャイルドシートは正しく取り付けないと本来の機能を果たさず危険です。しっかりと座席に固定してください。
- 角度チェッカーは本書にはさみ、いっしょに保管してください。
- **本書は、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。(10ページ参照)**



⚠危険　体重9kg未満は必ず後向きでご使用ください。前向きでの使用は非常に危険です。

目　次

お使いいただく前に

このたびは、コンビ チャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。
またチャイルドシートを使用するときには、必ず保護者の方が同乗してください。

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

●体重 ：18kg以下のお子さま
（参考年齢…新生児※～4才ころ）
7kg未満 → インナークッションを使用
9kg未満 → 後向きに取り付けて使用
9kg以上10kg未満 → 後向き・前向きどちらでも使用可能
10kg以上 → 必ず前向きで使用

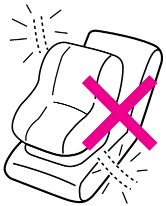
●身長： サブベルトカバーとあごとの間に3cm以上すきまがあくお子さま～後頭部が背もたれより上にでないお子さま

※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上

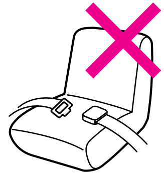
取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかり固定できない場合には使用しないでください。

●シートベルトの付いていない座席。



●2点式シートベルトの座席。



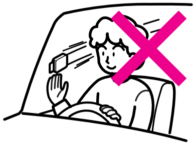
●シートベルトが座席の中央から出ている座席。
…チャイルドシートのシートベルト通し穴の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



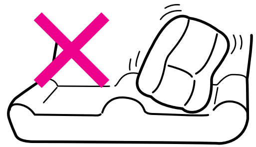
次の条件のいずれか１つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●パッシブシートベルトの付いた座席。

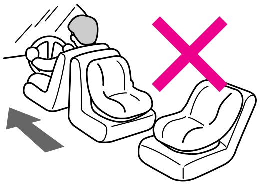
●パッシブシートベルトとは
…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。（オートマチックシートベルト）



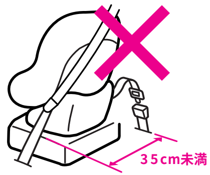
●シートの中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



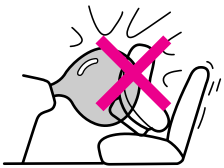
●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。

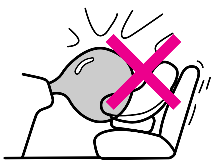


●シートベルトの取り付け幅※が35cm未満の場合。
※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。

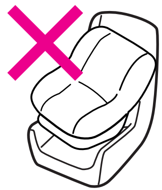


●エアバッグ装備の座席。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

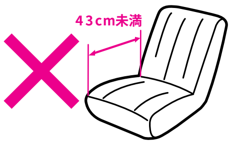




●極端なバケットシート。
…座面の中央が深くへこんでいる座席。



●座席の奥行きが43cm未満の場合。



チャイルドシートは前座席・後座席ともに取り付けられますが、より安全な後座席への取り付けをおすすめいたします。

安全にお使いいただくために

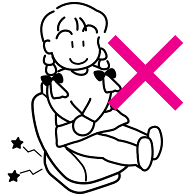
「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

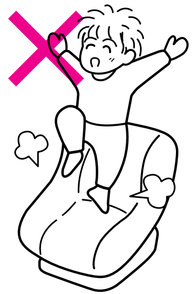
⚠危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

●使用条件に適合しないお子さま・座席などでは、使用しないでください。



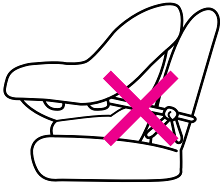
●お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。
座らせたときには、お子さまに胸あてパッド、幼児ベルトが正しく装着され、左右の差込タングがしっかりバックルに差し込まれ、表示が緑色に変わっていることを確認してください。



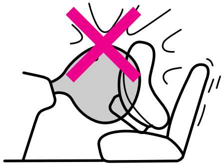
次ページに続く

⚠危険

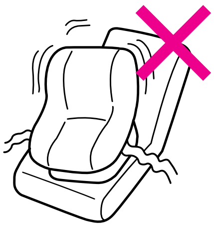
●車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。



●エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

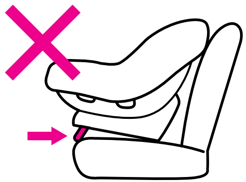


●車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかり固定できないときは、他の座席に取り付けてください。

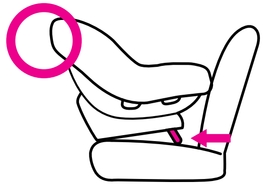


⚠警告

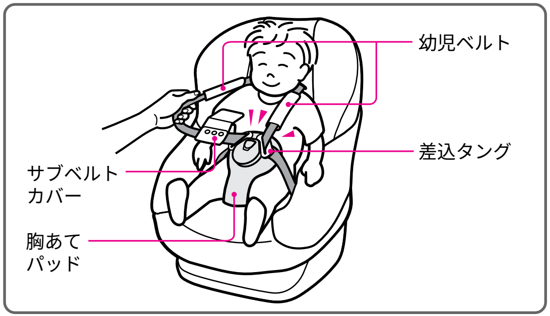
●前向き取り付け時には角度アジャスターを収納してください。また、後向き取り付け時には、必要に応じて角度アジャスターで角度を調節してください。（30ページ参照）
角度アジャスターを使っても調節できない場合は、その座席では使用しないでください。



前向き取り付け時



後向き取り付け時



⚠警告

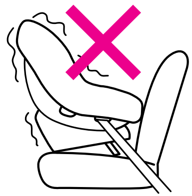
次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

●幼児ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

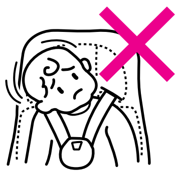
- 幼児ベルトは正しい長さに調節してください。（19ページ参照）



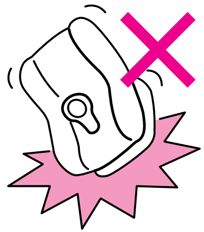
●後向きで使用するときは、リクライニングを最も倒した状態で取り付けてください。立った状態では、しっかり固定できません。



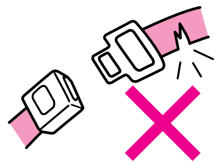
●7kg未満の小さな赤ちゃんを乗せる場合には、必ずインナークッションを正しく取り付けて、お子さまの体にフィットした状態で使用してください。



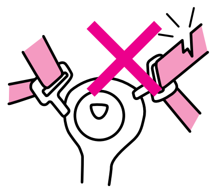
●衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。



●車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。



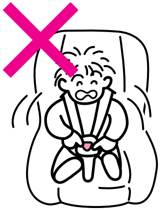
●幼児ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、弊社のお客様相談室にお問い合わせください。



次ページに続く

⚠警告

●お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差込タングがバックルからはずれていないことを確認してください。
はずれていると本来のはたらきをせずさらにベルトが首に巻き付くおそれもあります。



●お子さまを車内に1人で放置しないでください。
日ざしの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。

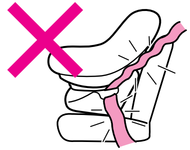


●お子さまがチャイルドシートから抜け出したりしないよう、座らせたときには、必ずベルトロックレバーで幼児ベルトをロックしてください。
（12ページ参照）



次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

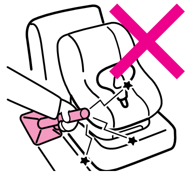
●お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



●車の前座席に、チャイルドシートを後向きに取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



●シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。

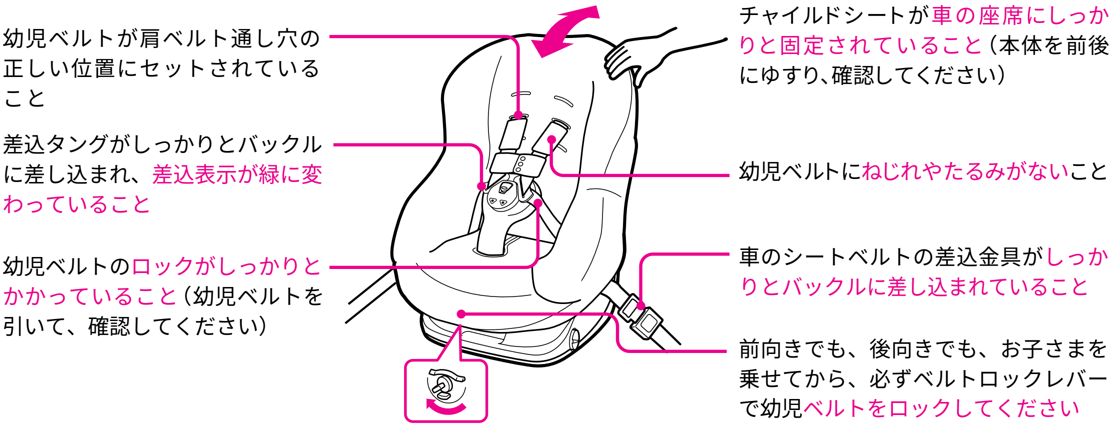


●2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。



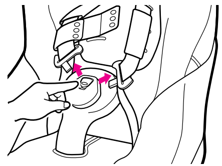
⚠日常の点検

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。



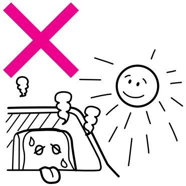
⚠緊急時の脱出

事故など緊急時は、あわてず、保護者の方が胸あてパッドのバックルボタンを押し、幼児ベルトをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。

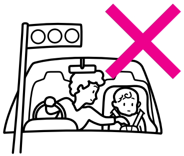


⚠注意

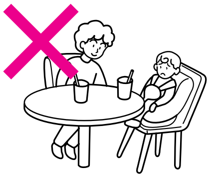
●直射日光が当たると、本体や差込タングなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。お子さまを乗せる前に各部にさわり、やけどをしないことを確認してから使用してください。



●走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。



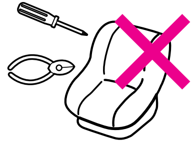
●チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。この取扱説明書に記載されている使いかたで使用してください。



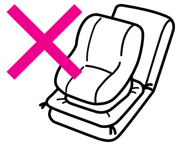
●チャイルドシートを車のシート可動部やドアにはさまないように、十分注意してください。



●チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



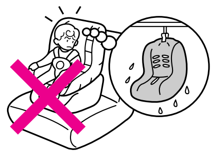
●車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。



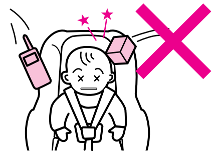
●ロッキングクリップをチャイルドシートを固定する以外の目的で使用しないでください。

●チャイルドシートを風雨にさらさないでください。

●シートクッションなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。(衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります)

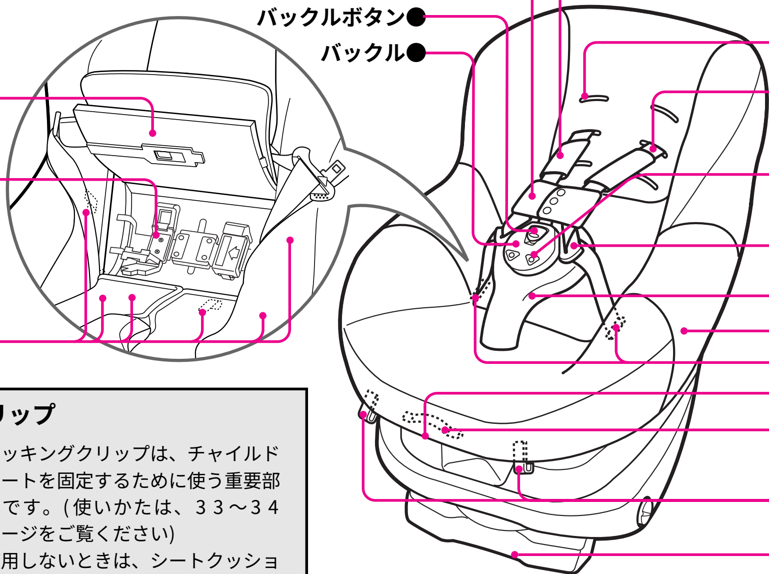


●固定されていない物を車内に置かないでください。急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たるおそれがあります。

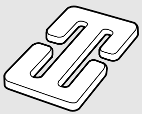


各部のなまえ ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

正　面



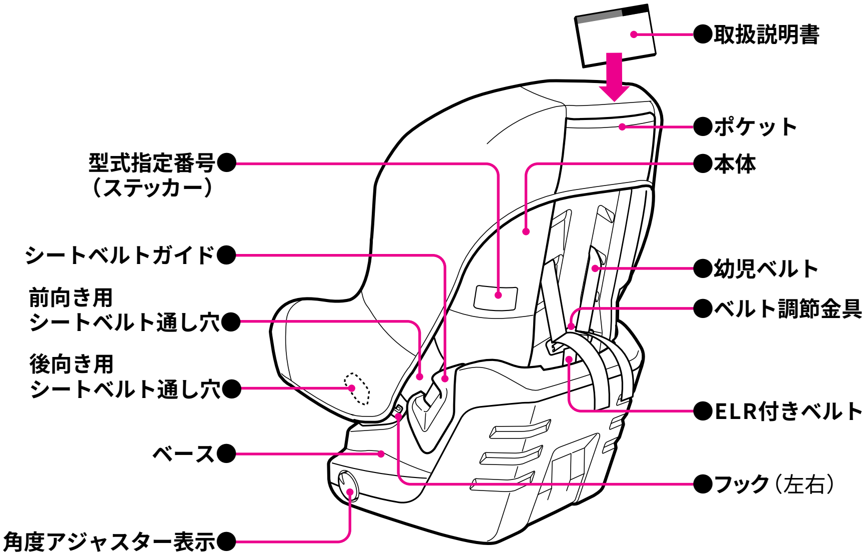
●ロッキングクリップ



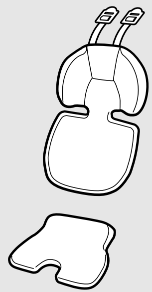
ロッキングクリップは、チャイルドシートを固定するために使う重要部品です。(使いかたは、３３～３４ページをご覧ください)
使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに取扱説明書とあわせて保管してください。

●ロッキングクリップを紛失された場合は、４９ページをご覧ください。

背面・側面



●インナークッション



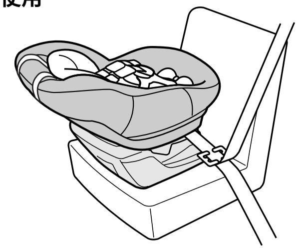
車に取り付ける前に

ここでは、お子さまの体重による取り付けの向きと正しい座らせかたを説明しています。またお子さまの体に合わせてチャイルドシートの幼児ベルトの長さ、肩ベルトの位置などを調節してください。

お子さまの成長に合わせて、3つの使いかたができます。

体重 7kg 未満（新生児※～4カ月ころまで）

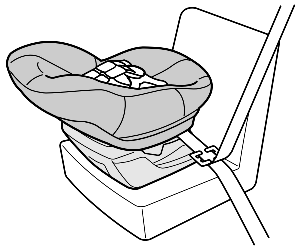
- 後向き使用（前向きでは、絶対に使用しないでください）
- インナークッション・サブベルトカバーを必ず使用
- リクライニングを最も倒した状態で使用



※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上

体重 7kg以上～10kg未満 まで（4カ月～1才ころまで）

- 後向き使用（9kg未満の場合は前向きでは、絶対使用しないでください）
- インナークッションは使用禁止
- サブベルトカバーを必ず使用



※9kg以上～10kg未満の一時的時期は、前向き・後向きいずれでもお使いいただけます。

体重 9kg以上～18kg以下 まで（1才ころ～4才ころまで）

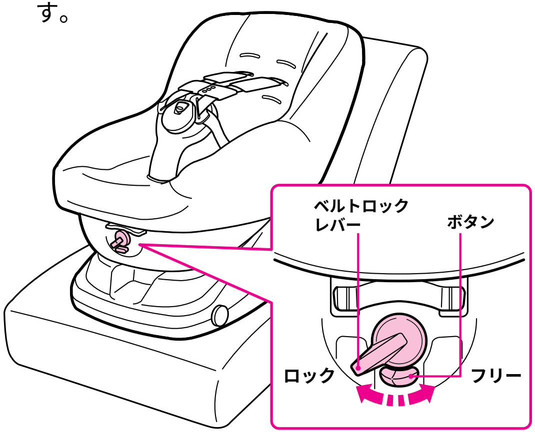
- 前向き使用
- インナークッションは使用禁止
- サブベルトカバーを必ず使用
- リクライニング使用可(取り付け後、リクライニングでチャイルドシートを倒すことができます)



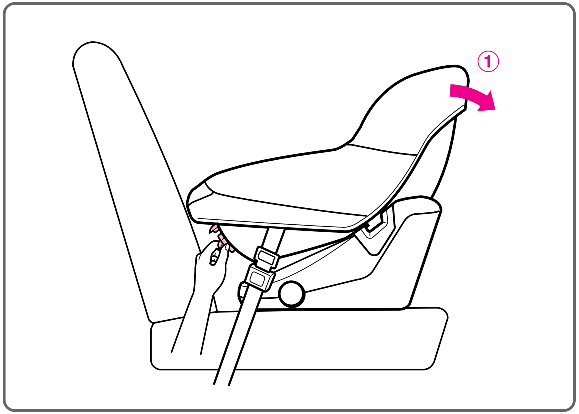
ベルトロックレバーの使いかた

お子さまをチャイルドシートに座らせたときには、必ずベルトをロックしてください。幼児ベルトが伸びなくなり、お子さまがチャイルドシートから抜け出すことを防ぐことができます。

1 ベルトロックレバーの下にあるボタンを押しながら、レバーをロック側またはフリー側に回します。



※ベルトロックレバーとベルト調節金具は連動しています。
※ベルトロックレバーを反対（上側）に回すと、故障の原因になります。



ワンポイント

- 後向きで使用する場合にも、必ずベルトをロックしてください。
- 手が入りにくい場合は、車のリクライニングを1段立てるか、本体の背もたれを①方向に押して操作してください。（その際、車のドア側ではなく、内側から行うと操作しやすくなります）

警告

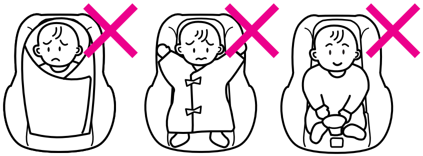
- ベルトがロックされない状態では、お子さまが抜け出したり、幼児ベルトが首に巻き付くおそれがあります。お子さまをチャイルドシートに座らせたら、前向き使用でも、後向き使用でも、必ずベルトをロックしてください。

お子さまの座らせかた

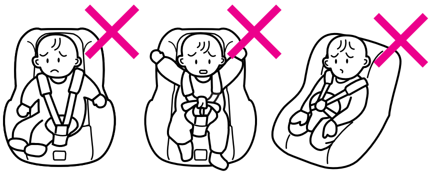
車に取り付けてからでは、チャイルドシートを調節できません。取り付け前に、お子さまを座らせ、ベルト通し穴の位置や幼児ベルトの長さをお子さまの体に合わせてください。

⚠ **警告**

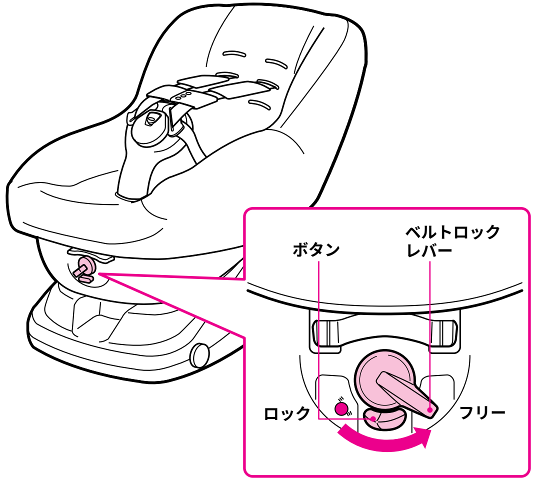
- おくるみなど、両足が分かれない衣類の着用はおやめください。



- お子さまをタオルなどでくるんだまま、乗せない。
- かさばったベビーウェアを着せたまま、乗せない。
- お子さまを乗せるときには、下図のような乗せかたをしないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

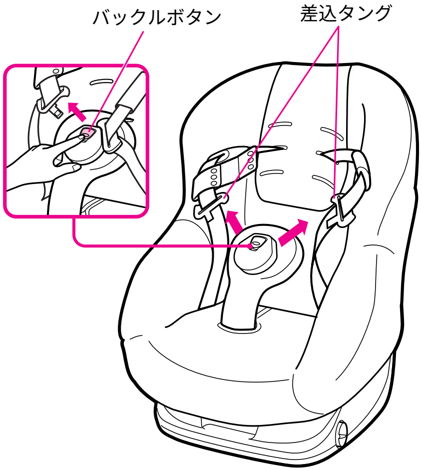


1 ベルトロックレバーの下のボタンを押しながら、レバーをフリー側に回します。

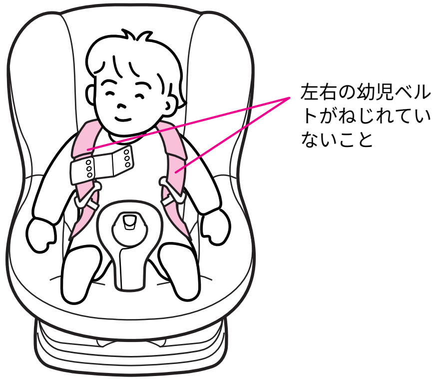


次ページに続く

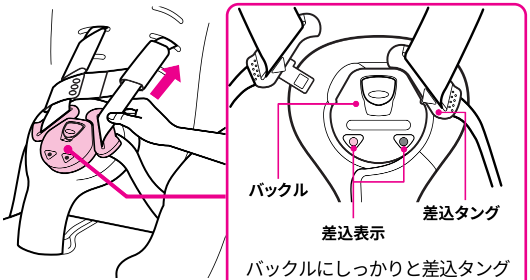
2 サブベルトカバーの右片方を幼児ベルトからはずし、バックルボタンを押して差込タングを抜きます。



3 お子さまを深く座らせて、左右の腕を幼児ベルトに通します。

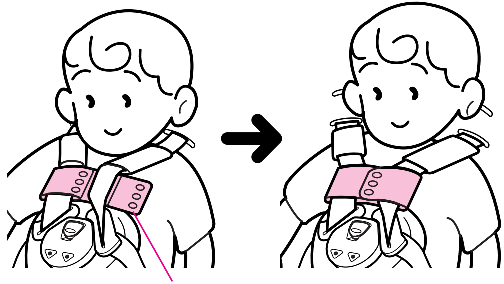


4 差込タングを『カチッ』と音がするまで、バックルに差し込みます。



バックルにしっかりと差込タングが差し込まれると、「差込表示」が**赤**から**緑**に変わります。

5 必ずサブベルトカバーを取り付けます。
このときサブベルトカバーが、お子さまの首にあたらないように注意してください。



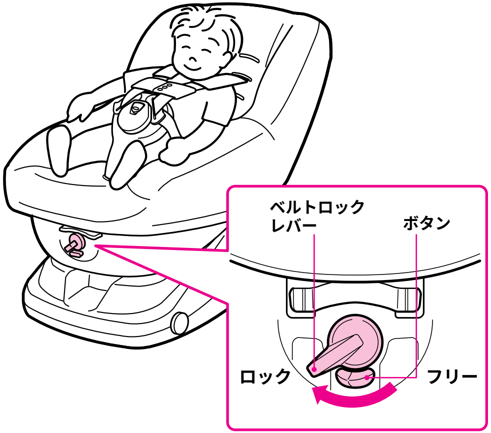
⚠警告

- 左右の差込タングが、完全にバックルに差し込まれて表示が緑色になっていないと、衝突時に子供が飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するなどのおそれがあります。

ワンポイント

- バックルは、お子さまの力ではずれないよう固くしてあります。
- お子さまを座らせていないときも、差込タングをバックルに差し込んでおいてください。

6 ベルトロックレバーの下のボタンを押しながら、レバーをロック側に回します。



肩ベルト通し穴の位置の決めかた

お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、肩ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児ベルトの位置を変えてください。（工場出荷時は一番下になっています）

低月齢のお子さまの場合

体重7kg未満のお子さまの場合は、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」と「幼児ベルトの長さ調節のしかた」については、特に注意してください。

⚠危険

- 肩ベルト通し穴の位置と幼児ベルトの長さが適正かを確認してください。
- 幼児ベルトが正しく肩にかかっていることを確認してください。
- サブベルトカバーを必ず使用してください。

※これらの調節が誤っていると、車の衝突時にお子さまがチャイルドシートから飛び出してしまうおそれがあります。

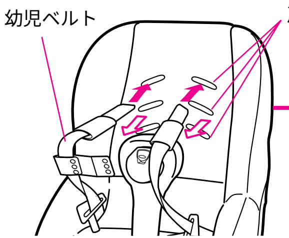
長時間の使用禁止

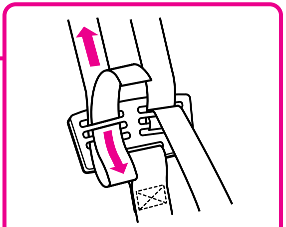
長時間連続してのご使用は、お子さまに負担となります。1時間程度をめやすに休憩をとるなどしてください。

1 チャイルドシートのリクライニングを、最も立てた状態にします。

2 ベルトロックレバーをフリー側に回し、本体裏側のベルト調節金具を引き出します。
（P12「ベルトロックレバーの使いかた」参照）

3 本体裏側のベルト調節金具から幼児ベルトを引き抜き、お子さまの体に合った肩ベルト通し穴に入れ直します。

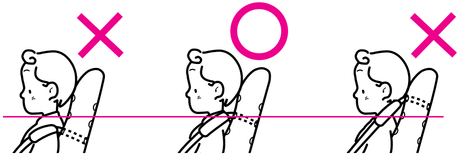




●幼児ベルトをベルト調節金具から引き抜いてはずします。

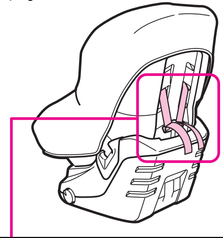
⚠警告

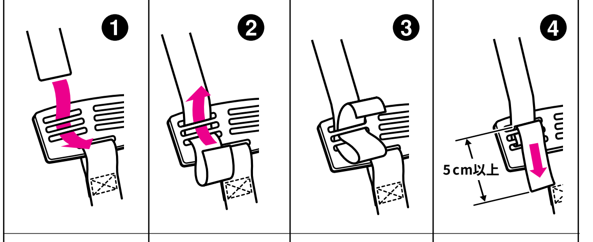
- 幼児ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。

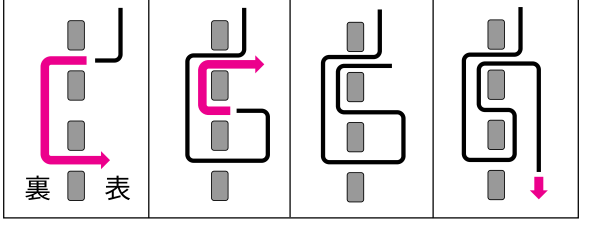


- 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに幼児ベルトが肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。
- 肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

2 ❶～❹の手順で、背面の幼児ベルトをベルト調節金具に取り付けます。





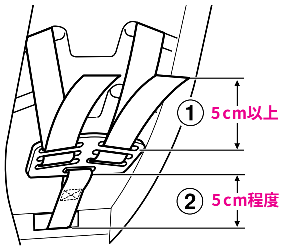


幼児ベルトの長さ調節のしかた

お子さまの体に合わせて、座らせた状態で幼児ベルトがフィットするように長さを調節します。

⚠警告

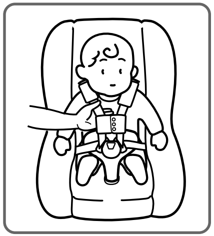
- 幼児ベルトがベルト調節金具からはずれるのを防ぐため、図①に示すように必ず幼児ベルトを5cm以上余らせてください。



- 図②のようにベルト調節金具を5cm程度引き出した位置でセットしてください。
- 幼児ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

ワンポイント

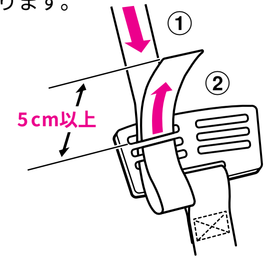
- お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入りますか。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児ベルトの長さを調節してください。



※調節の前に、17ページの手順 1,2をご覧ください。

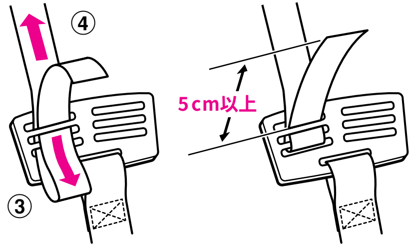
幼児ベルトを短くするには

矢印①の方向に幼児ベルトを引き、たるみをもたせて、②の方向に引っ張ります。



幼児ベルトを長くするには

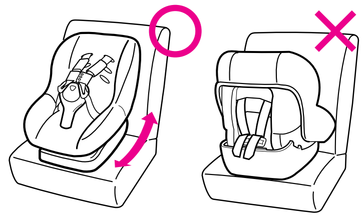
矢印③の方向に幼児ベルトを引き、④の方向に引っ張ります。



リクラインニングの使いかた（前向き使用時のみ）

前向きで使用するときには、お子さまが寝たときなどのために、車のシートベルトをゆるめずにチャイルドシートを寝かせることができます。後向きで使用する場合は、最も寝かせた状態で取り付けてください。

後向き使用時にはリクライニングを使用しないでください



後向きの場合、リクライニングを起こさないでください。

⚠ 注意

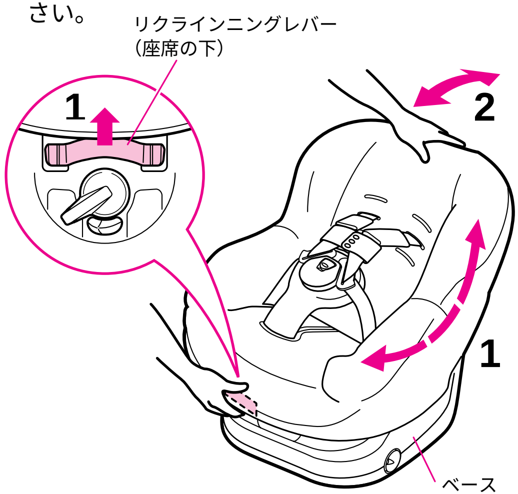
- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

ワンポイント

- 取り付け後、リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1～2段リクライニングさせてから操作してください。リクライニング後、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。
- 車の座席がリクライニングできない場合や座席の形状によっては、チャイルドシートのリクライニングが使用できないことがあります。

1 チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを手前に引き、リクライニング角度を調節します。（3段階）

2 レバーから手を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされた状態であることを確認してください。



インナークッションの使いかた(7kg未満のお子さまには)

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が7kg未満の場合には、必ずインナークッションをお使いください。

⚠危険

- インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が7kg未満のときだけです。7kg以上の体重で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。
- インナークッション(頭部用・座面用)は必ずセットでお使いください。どちらか片方だけでは使用しないでください。
- インナークッションは、取り付けかたをよくお読みになり、正しく使用してください。

⚠注意

- はずしたインナークッションを車室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

長時間の使用禁止

長時間連続してのご使用は、お子さまに負担となります。1時間程度をめやすに休憩をとるなどしてください。

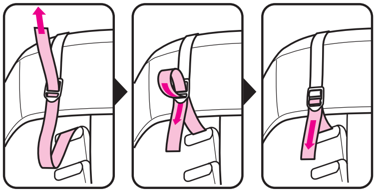
保護者の同乗

できるだけ運転者以外に同乗者が乗り、お子さまから目を離さないでください。やむを得ず、運転者以外に同乗者がいない場合は、安全運転に留意し、休憩時などにお子さまのようすをご確認ください。

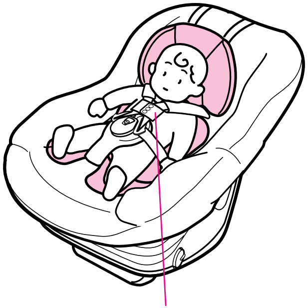
次ページに続く

インナークッションの取り付けかた

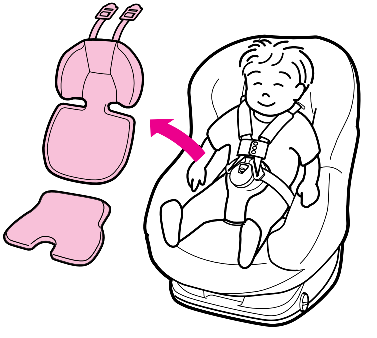
ベルトを図のように取り付けます。



1 7kg未満のお子さまが使用する場合は、インナークッションを付けたまま使用してください。



2 7kg以上のお子さまが使用する場合には、インナークッションをはずして使用してください。



ワンポイント

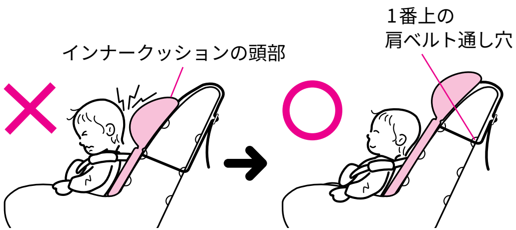
● インナークッションの頭部がきゅうくつな場合は、次のページをご覧ください。

インナークッションを取り付けてチャイルドシートを使う場合は、以下の点にご注意ください。

●インナークッションの頭部がきゅうくつな場合

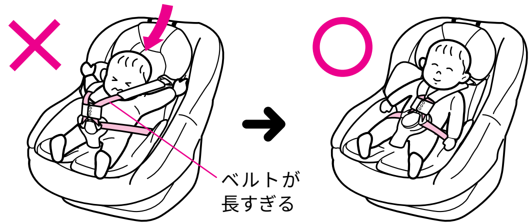
インナークッションの頭部がきゅうくつな場合は、1番上の肩ベルト通し穴に取り付けてください。（それでもきゅうくつな場合は、インナークッション座面用に入れられているウレタンを取りはずしてください）

※2番目の穴が適切な場合もあります。



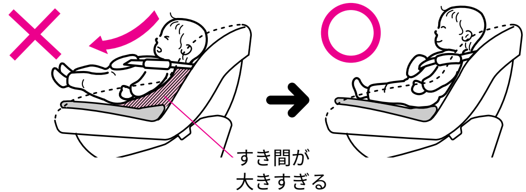
●肩ベルトの長さを正しく調節してください

肩ベルトの長さ調節がゆるいと、お子さまがずり落ちやすくなります。正しい長さに調節してください。



●正しく座らせてください

お子さまをチャイルドシートの座面に深く、しっかりと座らせてください。座らせかたが浅いと、お子さまがずり落ちます。



車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、角度チェッカーの使いかた、後向きの取り付けかた、前向きの取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1ページを参照してください。

⚠危険

- チャイルドシートがしっかりと固定できない場合は、本来の機能を果たさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
  ※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

⚠警告

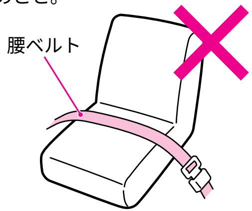
- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に固定しておいてください。
- シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

チャイルドシートは、シートベルトの種類によって取り付けかたが異なったり、取り付けられない場合があります。

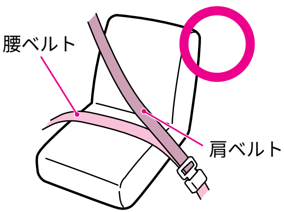
2点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトの2点で体を支えるシートベルトのこと。



3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルト左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



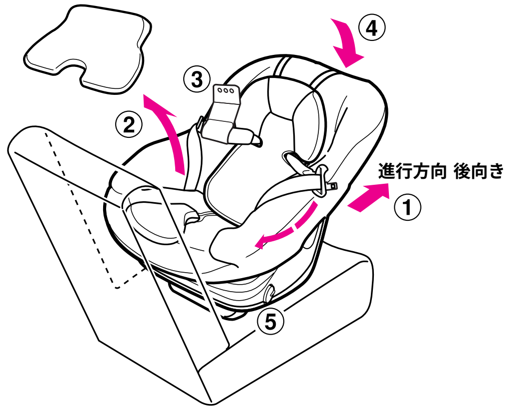
⚠ 危険

- 必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。
- 2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

車のシートベルトの種類(シートベルトの方式)	特徴(見分け方)	取り付け時の注意点	
		後向き取り付け時(体重10kg未満)	前向き取り付け時(体重9kg以上~18kg以下)
ELR付きシートベルト(緊急ロック式ベルト巻き取り装置付き)	ゆっくり引くと自由に出入りし、勢いよく引くとロックする。	ロッキングクリップを必ず使用。	本体内部のロック機構を使用。
チャイルドシート固定機能付きベルト(AELR付きシートベルト)	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すと自動的に締まり、それ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	ロッキングクリップ不要。ただし、安定しない場合はロッキングクリップを使用。	本体内部のロック機構を使用。
マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	ベルトの長さを調節し固定する。ただし、安定しない場合はロッキングクリップを使用。	本体内部のロック機構を使用せず、ベルトの長さを調節して固定する。
NLR付きシートベルト	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。		
ALR付きシートベルト	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	必要な長さを引き出して固定する。ロッキングクリップ不要。	本体内部のロック機構を使用せず、ベルトの長さを調節して固定する。

後向き取り付けの準備（10kg未満のお子さまには）

① **10kg未満のお子さま**を乗せる場合には、**後向き**に取り付けます。特に**9kg未満**の場合は、**前向きでは絶対に使用しないでください。**
② インナークッションを取り付ける場合は、取り付け作業時に**座面用インナークッションをはずして**ください。
③ サブベルトカバーを使用してください。
④ チャイルドシートのリクライニングを、**最も倒した状態**にします。（20ページ参照）
⑤ 取り付け時に正しく角度チェッカーを使用できるように、**車を平らな場所に駐車して**作業してください。
⑥ 座席に、チャイルドシートを**後向きに乗せて**ください。



⚠警告

- 後向きで使用するときは、チャイルドシートのリクライニングを最も倒した状態で取り付けてください。立った状態ではしっかり固定できません。
- 7kg未満のお子さまを乗せる場合には、必ずインナークッションを使用してください。

取り付け角度コントロールシステムの使いかた

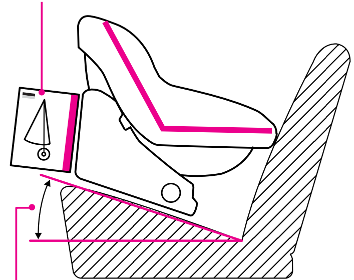
車の座面角度は、車種によってさまざまです。このためチャイルドシートの角度が不適切になる場合があります。このような場合には、「取り付け角度コントロールシステム」を使い、**最適な角度で取り付けてください。**角度コントロールシステムは、後向き取り付け時の角度を確認する**「角度チェッカー」**と、後向き取り付け時の角度を調節する**「角度アジャスター」**（ベースの下側）のことで、車の座席にチャイルドシートを置いて適切な取り付け角度を確認・調節することができます。

⚠ **危険**

- 角度チェッカーが危険をさしている状態では、絶対に使用しないでください。
- 角度アジャスターは、後向きで使用してください。取り付け時には角度チェッカーでお子さまの体重と表示があっていることを確かめて使用してください。
- 角度チェッカーがお子さまの体重と異なる範囲をさしている場合は、必ず角度アジャスターで適切な取り付け角度に調節してから使用してください。
- 前向きで使用するときは、必ず角度アジャスターを収納してください。

●角度チェッカーは、図のようにベースの背面にあてて、座席でのチャイルドシートの角度を計測するものです。

後向き取り付け時には、必ず角度を確認

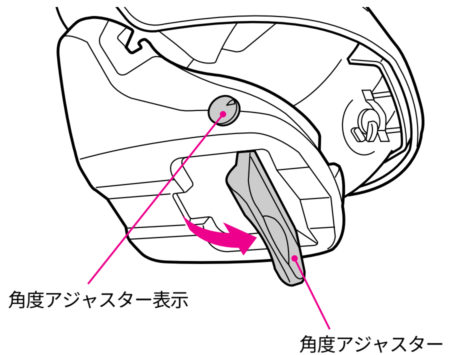


→

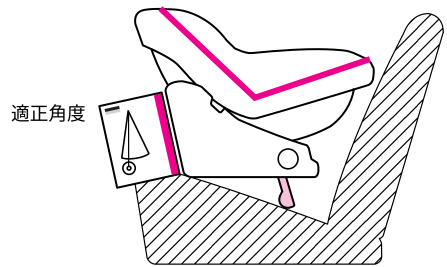
ワンポイント

● 車の座面角度がきつく、「危険（立ちすぎ）」をさしている場合は、２９～３０ページを参照して、計測・調節してください。

角度がきついときは、角度アジャスターで調節して



適切な角度に取り付けます



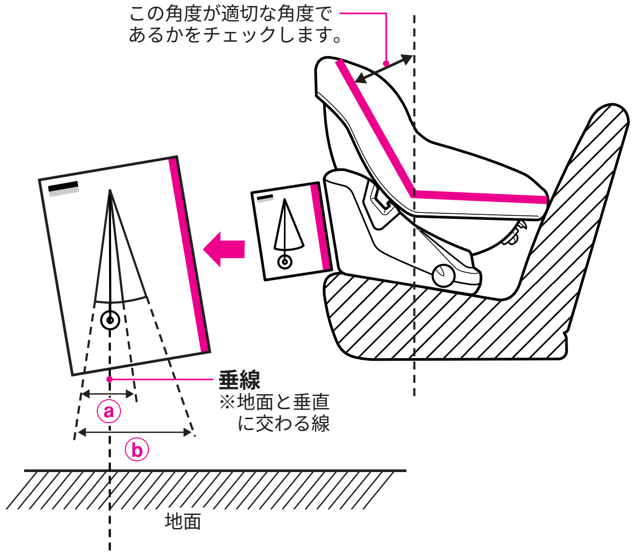
ワンポイント

● 車の座面角度がゆるい場合も、角度チェッカーが「危険（倒れすぎ）」をさしたままの状態では、その座席ではチャイルドシートをお使いにならないでください。

角度チェッカーの使いかた

後向きにチャイルドシートを取り付ける場合は、必ず角度チェッカーで取り付け角度を確認してください。

① **車を平らな場所に駐車してください。**
② **角度チェッカーを、チャイルドシートのベース背面にあてます。**
③ **・7kg未満で首のすわっていないお子さまの場合**
　ⓐの範囲に糸が入っていることを確認してください。
　・7kg以上10kg未満で首のすわっているお子さまの場合
　ⓑの範囲に糸が入っていることを確認してください。
④ **角度チェッカーの表示が、お子さまの体重と合っていない場合は、ベース底面の角度アジャスターを使って角度を調節してください。**



角度アジャスターの使いかた

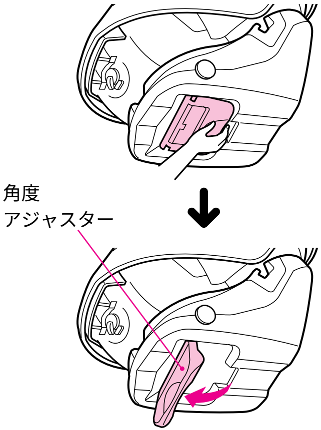
角度チェッカーが「危険(立ちすぎ)」をさしているときには

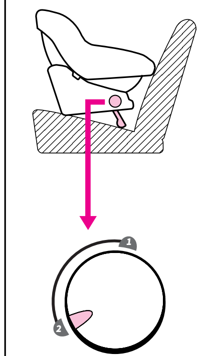
① **ベース下にある角度アジャスターを引き出す。**
角度アジャスター表示が**1**から**2**へ変わります。

② **もう一度、車の座席にチャイルドシートを置いて、角度チェッカーで取り付け角度を計測する。**

⚠警告
- 背もたれが倒れすぎていると、事故の際お子さまがチャイルドシートから投げ出されるおそれがあります。角度アジャスターを使っても、取り付け角度を使用範囲に調節できないときは、その座席ではお使いにならないでください。

⚠注意
- 角度アジャスターを操作するときは、指をはさまないように注意してください。



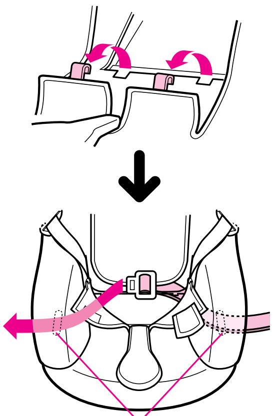


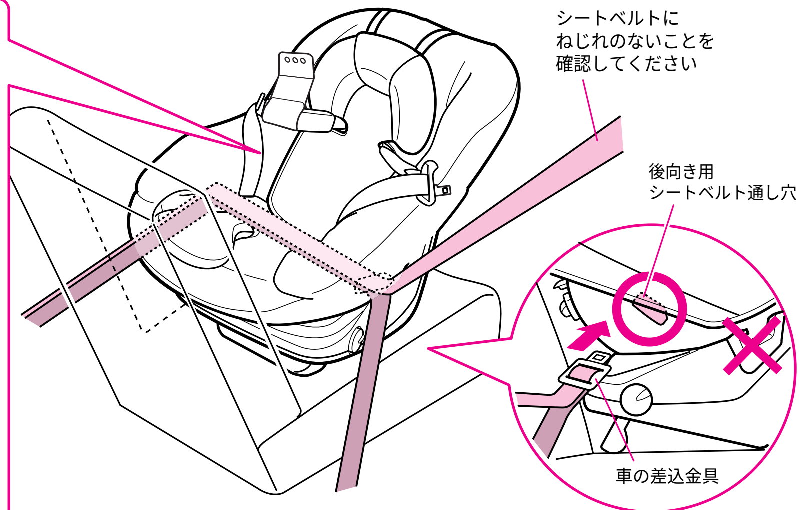
角度アジャスター表示が **2**

座席への取り付けかた

1 車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出します。

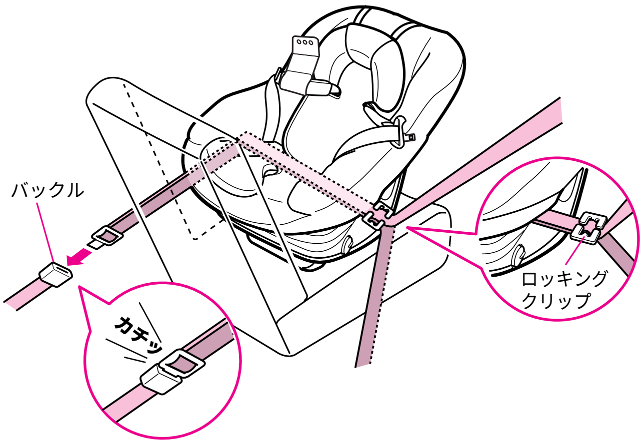
> **危険**
> ● シートベルトを通す穴が、後向きと前向きで異なります。十分ご注意ください。



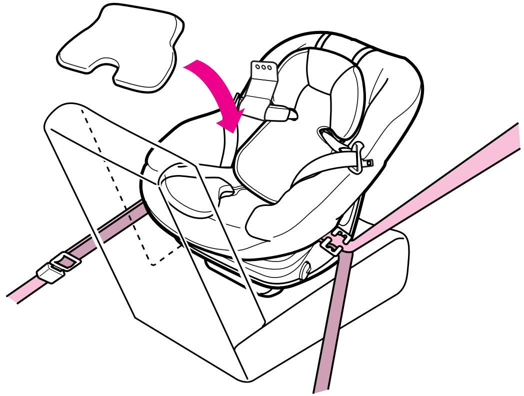


2 車の差込金具をバックルに差し込みます。
車のシートベルトの種類により（２５ページ参照）、ロッキングクリップを取り付けます。（ロッキングクリップの取り付けかたは、３３～３４ページをご覧ください）

※できるだけ後向き用シートベルト通し穴より低い位置に取り付けてください。



3 インナークッションを取り付ける場合は、準備ではずした座面用インナークッションを取り付けます。



4 最後に「後向き取り付け時の完了チェックのしかた」（３５ページ）をお読みになり、しっかり固定しているかを確認してください。

取り付け後、不安定な場合や取り付けづらい場合は４２ページおよび４７～４８ページをご覧ください。

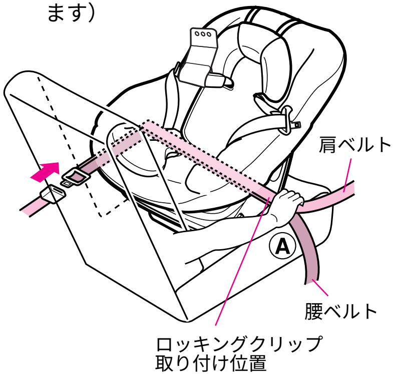
ロッキングクリップの取り付けかた

いずれかの取り付けかたをお選びください。

A

1 車のシートベルトを、後向き用ベルト通し穴に通します。

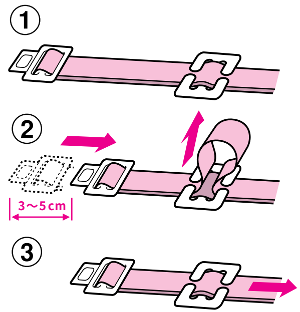
2 図のⒶの位置で、2枚のシートベルトを合わせてつかみ、バックルをはずして引き抜きます。（洗濯ばさみなどでシートベルトをはさんでおくと、取り付けが楽になります）



3 ① 2枚のベルトがずれないように、ロッキングクリップを取り付けます。

② 図のように、車の肩ベルトを引いて、ロッキングクリップと差込金具の間を3～5cm短くします。

③ ロッキングクリップ上のたるみをなくします。

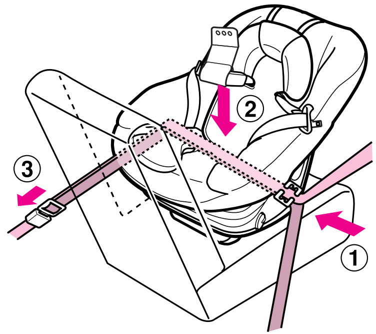


4 ① 再び、シートベルトをベルト通し穴から送り入れます。

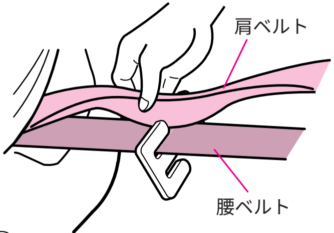
② 上から強く押しつけながら、

③ バックルに差込金具を差し込みます。

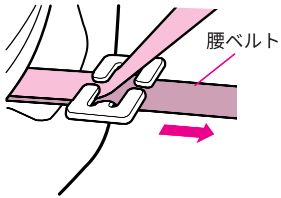
> ⚠注意
> ● バックルに差し込めない場合は、再度ロッキングクリップの位置を調節してください。



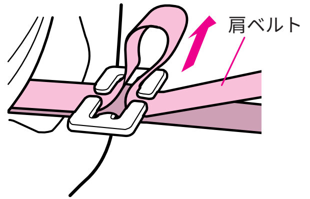
B



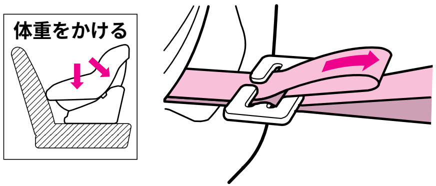
①車のシートベルトを、腰ベルト、肩ベルトの順に、２つ折りにして、ロッキングクリップの溝に入れます。



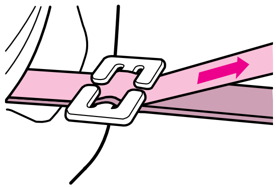
②腰ベルトを、ベルトクリップのもう１つの溝に入れます。



③肩ベルトも、図のように片手が入るぐらいの輪ができるようにして、もう１つの溝に入れます。



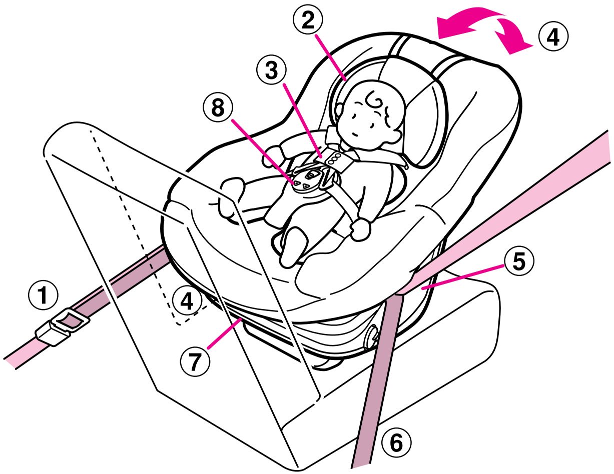
④しっかり固定させるため、チャイルドシートの上から体重をかけて押さえ、肩ベルトの輪の部分を引きます。



⑤肩ベルトを引いて、輪のたるみをなくします。

後向き取り付け時の完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。

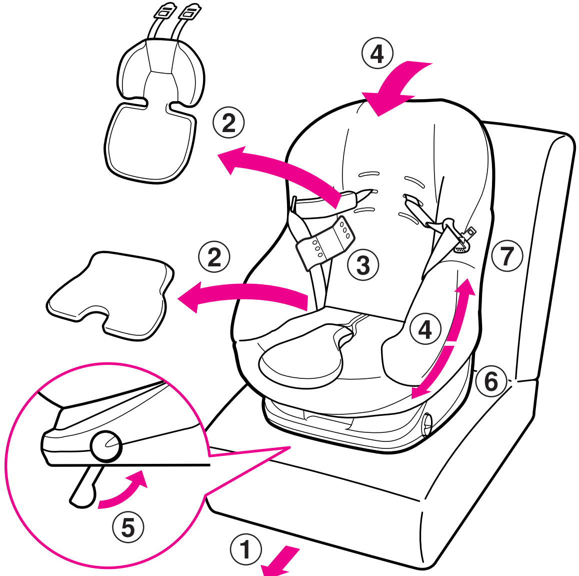


① 車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
② お子さまの体重が7kg未満の場合は、インナークッションが取り付けてあること。
③ サブベルトカバーが取り付けられていること。
④ 車の背もたれとチャイルドシートの接している部分に、手のひらが入るようなすきまがないこと。
本体を前後にゆすって、しっかり固定されていることを確認してください。
⑤ 角度チェッカーの表示が適切な角度であること。
⑥ お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
※お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。
⑦ お子さまを座らせたら、必ずベルトロックレバーで幼児ベルトをロックすること。
⑧ 差込タングがしっかりバックルに差し込まれ、差込表示が緑色に変わっていること。

⚠警告
● これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合はロッキングクリップで車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

前向き取り付けの準備(9kg以上～18kg以下のお子さまには)

① 9kg以上～18kg以下のお子さまを乗せる場合には、前向きに取り付けます。
② 頭部用、座面用の2つのインナークッションをはずしてください。
③ サブベルトカバーを使用してください。
④ チャイルドシートのリクライニングを、最も立てた状態にします。（20ページ参照）
⑤ 角度アジャスターをベースの底面に収納してください。前向き使用では、角度アジャスターは使用禁止です。
⑥ 車の取り付ける座席に、チャイルドシートの底面と背面をしっかりつけて前向きで、置いてください。
⑦ 幼児ベルトのあまりを、ベース部と車のシートとの間にはさまれないように注意してください。

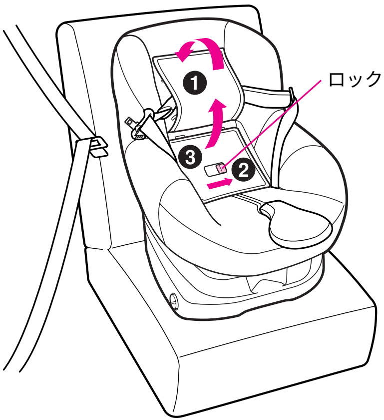


警告
- 前向き使用時には、必ず角度アジャスターを収納してください。

座席への取り付けかた

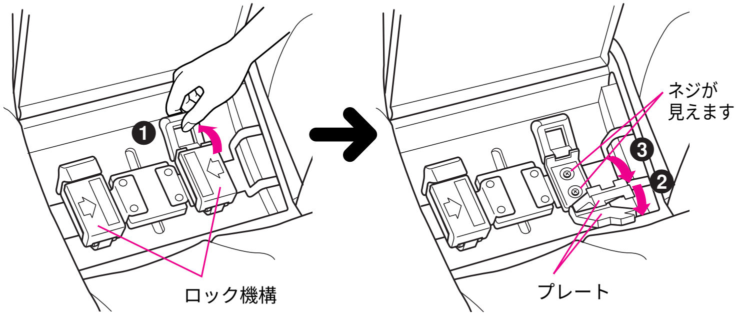
1 背もたれ部分のフタを開ける

❶シートクッションをめくり、
❷ロックを右に押しながら、
❸プラスチックのフタを手前に引き上げ、「カチッ」と音がして止まるまで開きます。

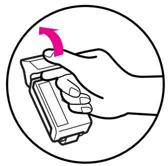


2 左右のロック機構を開く

❶ロック機構のツメをはずし、❷1枚目と、❸2枚目のプレートを手前に起こして開きます。



ツメは、安全のため固めになっています。はずしにくいときは、下図のように持つと簡単にはずれます。

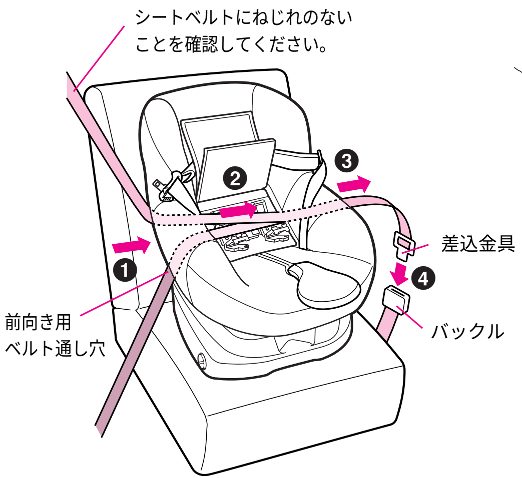


左右合わせて4枚のプレートを開きます。

次ページに続く

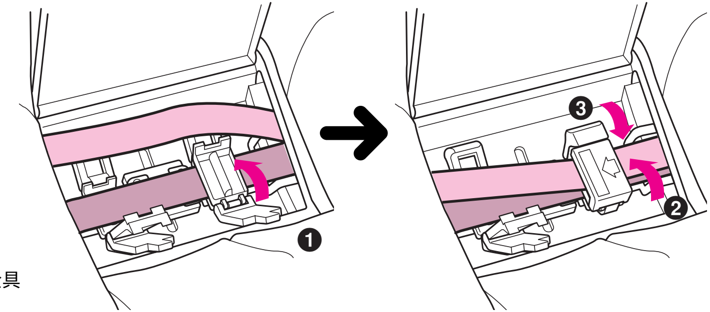
3 シートベルトを通す

❶前向き用ベルト通し穴にシートベルトを通し、❷開いたロック機構の上を通して❸反対側の穴から引き出し、❹差込金具をバックルに差し込みます。

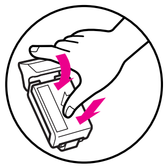


4 バックル側のロック機構にベルトをはさむ

❶図のようにバックル側の2枚目のプレートの下に、下側のシートベルトのみをはさみます。
❷上側のシートベルトを2枚目と1枚目のプレートの間にはさみ、❸ツメをかけてロック機構を閉じます。

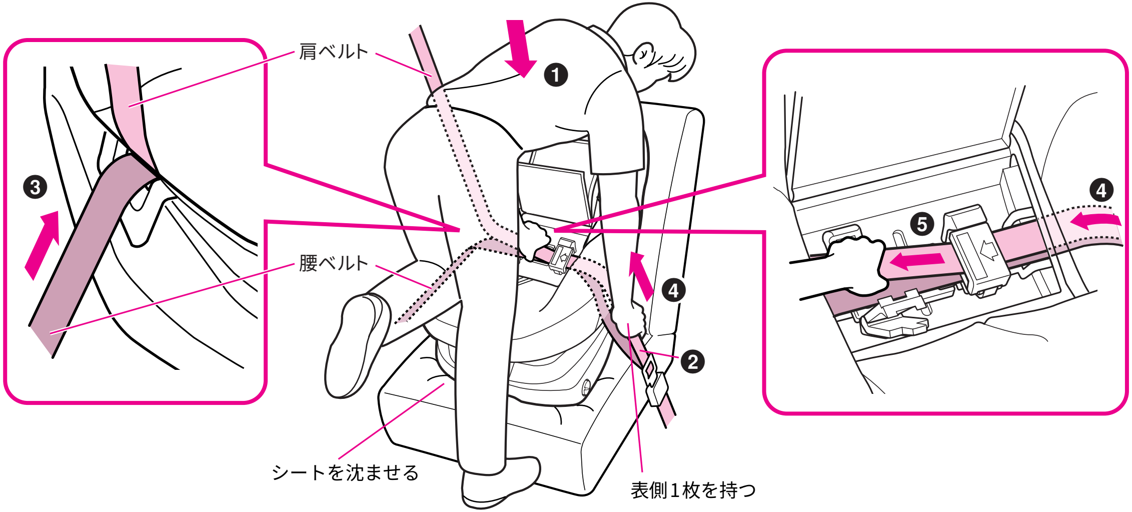


ロック機構のツメは、安全のため固めになっていますが、右図のように1枚目のプレートを押しながらかけると簡単にかかります。



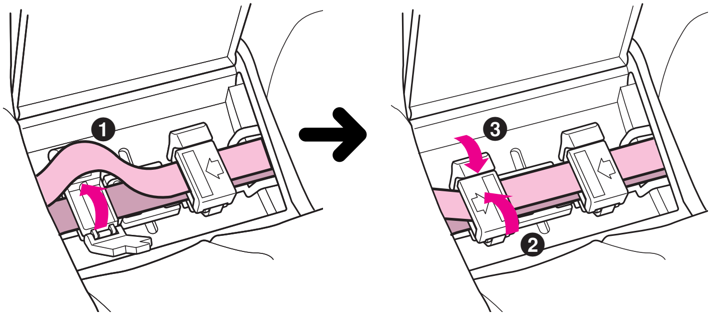
5 体重をかけシートベルトを締め付ける

❶チャイルドシートの座面にひざを乗せて体重をかけ、車の座席に十分沈みこむようにします。❷差込金具上部の外側のベルト(肩ベルト)を強く引きながら、❸反対側のシートベルト(腰ベルト)が十分張っていることを確かめてください。❹「❷」の部分を強く引きながら、もう一方の手で肩ベルトの「❺」の部分を引き、「❷」の部分のたるみをなくします。



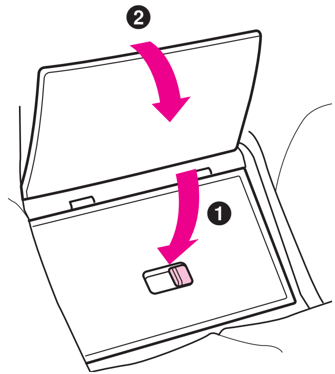
6 もう一方のロック機構を閉じる

❶図のように2枚目のプレートの下に、下側のシートベルトのみをはさみます。
❷上側のシートベルトを2枚目と1枚目の間にはさみ、❸ツメをかけてロック機構を閉じます。



7 フタを閉じる

❶プラスチックのフタを、ロックがかかるまでしっかり閉じます。❷シートクッションを戻します。

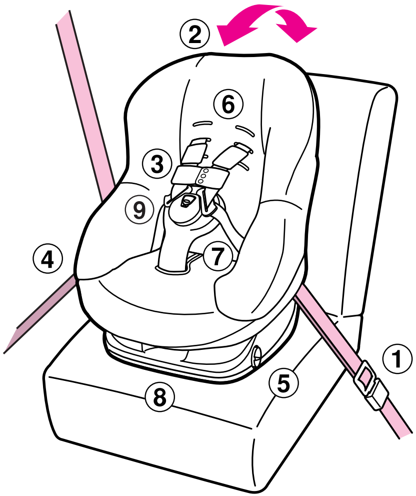


⚠ **警告**

必ず次のページの「前向き取り付け時の完了チェックのしかた」にしたがって取り付け確認をしてください。

前向き取り付け時の完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。



① 車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。

② 車の背もたれとチャイルドシートの台座との間に、手のひらが入るようなすきまがないこと。
本体を前後にゆすって、しっかり固定されていることを確認してください。

③ サブベルトカバーが取り付けられていること。

④ お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
※お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。

⑤ 角度アジャスター表示が1であること。

⑥ インナークッションが取りはずしてあること。

⑦ チャイルドシートのフタが確実に閉まっていること。

⑧ お子さまを座らせたら、必ずベルトロックレバーで幼児ベルトをロックすること。

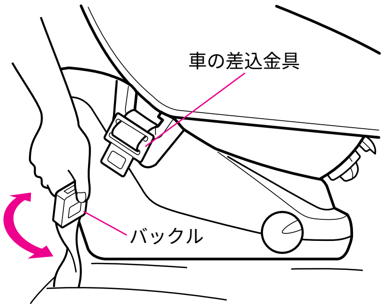
⑨ 差込タングがしっかりバックルに差し込まれ、差込表示が緑色に変わっていること。

⚠ 警告

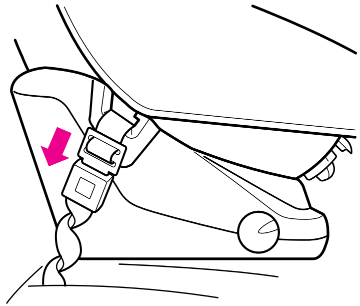
- これらの項目をチェックし、しっかり固定されていない場合は、39ページの「5」からの手順をもう一度行ってください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。
- 車のシートベルトの仕様によって、ベルトロックが使用できない場合があります。その場合は、他の座席に取り付けてください。

バックルの位置によって、しっかり固定できない場合

短ベルト(バックルのついている車のシートベルト)がシートベルト通し穴の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。



1 差込金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに1〜3回ひねりを加えて短くします。



2 もう1度差込金具をバックルに差し込み、固定します。

※1〜3回ひねりを加えてもシートベルト通し穴の角に当たる場合は、当社専用のフィットマット(別売)をご使用ください。

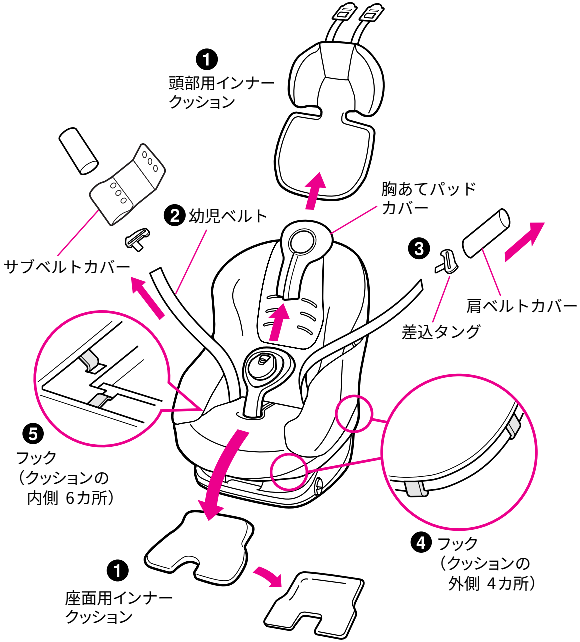
⚠警告

- ひねりを加えたり、フィットマット(別売)を使用してもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。
本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

お手入れのしかた

シートクッションのはずしかた

❶ インナークッション(頭部用、座面用)をはずします。
❷ 左右の幼児ベルトを、本体裏側にあるベルト調節金具からはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。
❸ 幼児ベルトから差込タングを引き抜きます。肩ベルトカバー、サブベルトカバー、胸あてパッドカバーをはずします。
❹ チャイルドシートの外側にある4カ所のフックをはずします。
❺ 内側6カ所のフックをはずします。
❻ 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。

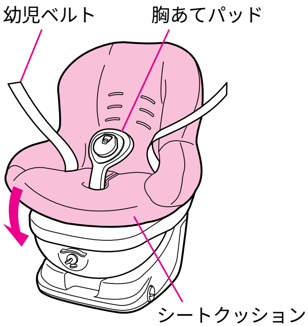


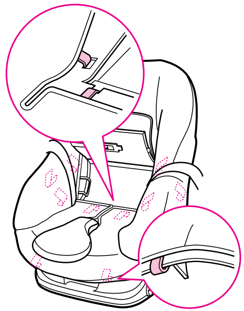
※洗濯をするときは、インナークッションのなかのウレタンをはずします。

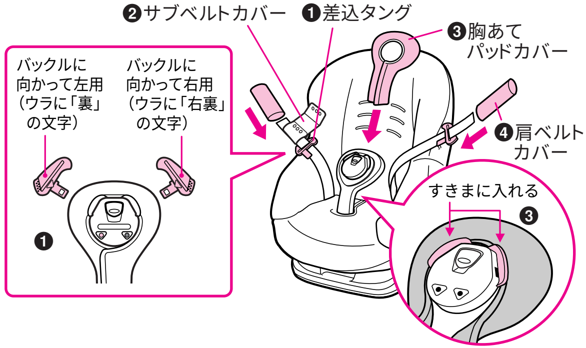
ワンポイント
● 差込タングは、左右を確かめて、バックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。

次ページに続く

シートクッションの取り付けかた



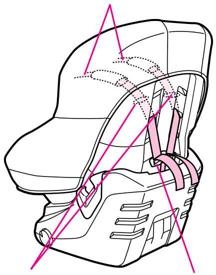


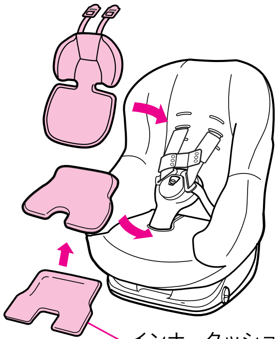


1 シートクッションを本体の背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴から通し、シートクッションを全体にかけ、幼児ベルトをシートクッションの下から、ねじれないように表側に引き出します。

2 シートクッション中央のフタを開け、内側のフック6カ所と、シートクッション外側のフック4カ所をそれぞれ本体にとめます。

3 ❶ 差込タングの左右、表裏を確認し、幼児ベルトに通します。
❷ 左側の幼児ベルトにサブベルトカバーを通します。
❸ 胸あてパッドにカバーをかぶせます。（このとき、必ずカバーのえりの部分を、バックルの後ろのすきまに入れてください）
❹ 幼児ベルトに肩ベルトカバーを通します。



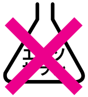
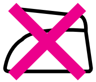


4 幼児ベルトを肩ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。（１７～19ページ参照）

5 インナークッション用のウレタンを入れ、インナークッションを取り付けます。

シートクッション、肩ベルトカバー、胸あてパッドカバー、インナークッション、サブベルトカバーの洗いかた

●洗濯時は次のことを守ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。 強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干ししてください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

本体、幼児ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

⚠警告
● 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

●ロッキングクリップ

チャイルドシートを使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

※他のお客さまにチャイルドシートをお譲りになる場合は、取扱説明書とロッキングクリップもあわせてお渡しください。

●本体

長期間使用しないときは、車から降ろし風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

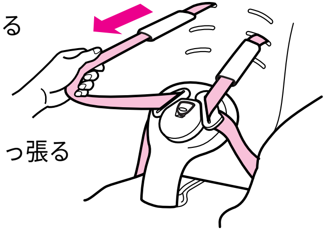
万一、幼児ベルトがロックしたときの解除方法

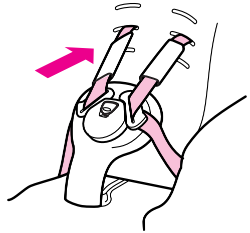
●チャイルドシートの前側から

1 幼児ベルトを手前に強く引っ張ります。

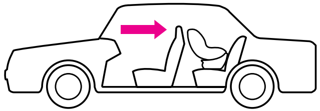
2 矢印方向にゆっくり戻します。

3 もう1度、手前方向に、ゆっくり引き出します。



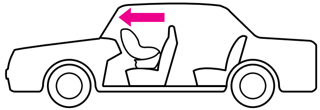


チャイルドシートを、より確実に固定する方法



●後座席で、後向きに取り付けた場合

車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートの背面に接するようにしてください。より確実に固定できます。

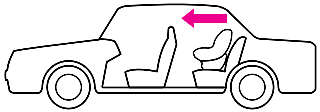


●前座席に、後向きで取り付けた場合

エアバッグが装着された座席では、使用できません。また、より安全な後ろ座席への取り付けをおすすめします。

ダッシュボードとチャイルドシートの背面が接するように座席をスライドさせてください。より確実に固定できます。

※車種により、ダッシュボードに接しない場合があります。



●スライドできる座席に取り付けた場合

取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせてください。より確実に固定できます。

⚠警告

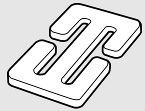
● エアバッグが装着された座席では使用しないでください。エアバッグの作動による衝撃で、危険な状況になります。(装備されているのがサイドエアバッグのみの場合には使用できます)

製品仕様

ハピオスファースト2.5

製品サイズ：(W)470×(D)550×(H)690mm
製品質量　：10.6kg
材質　　　：本体…ポリプロピレン
シートクッション
表生地…ポリエステル
クッション材…ウレタンフォーム

ロッキングクリップ　（No.30323710）



ロッキングクリップを紛失された場合は、店頭にてお買い求めいただけます。また、下記の方法で有料にてお求めいただけます。

●お申し込み先

コンビ株式会社
コンシューマープラザ(お客様相談室)

ＴＥＬ：０４８－７９７－１００１
ＦＡＸ：０４８－７９８－６１０９
電話受付時間：１０：００～１７：００
（日・祝日・年末年始除く）

●ホームページでのご案内
http://www.combi.co.jp/soudan/faq_baby.htm

Memo